

【埼玉県さいたま市】スマート・ターミナル・シティさいたま

■都市課題

- ・慢性的な交通渋滞の解消
- ・自家用車依存からの脱却
- ・ウォーカブルな街づくりの推進
- ・脱炭素化 等

■解決方策

「市民のウェルビーイングな暮らしを実現するくスマートシティさいたま」の実現に向け、駅を核としたウォーカブルでだれもが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。

■KPI

	現況値	目標値
自家用車からの転換可能性 (アンケート調査)	-	50%
シェア型マルチモビリティ利用数	(現況を100%とする)	120%

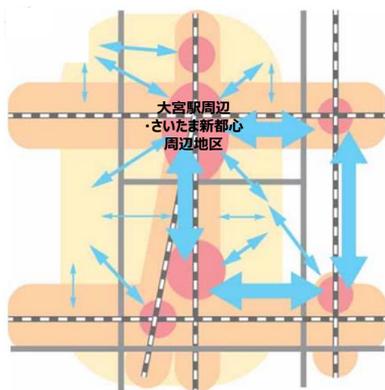
■実証実験の概要・目的

これまでのシェア型マルチモビリティの実証結果を踏まえた**最適なモビリティの組み合わせと配置**により、特例特定小型原動機付自転車などの新たなモビリティのシェアリングサービスを導入し、より**多様な移動手段（選択肢）を市民に提供することによる自家用車からの転換効果・中心市街地の来訪機会創出効果**を検証する。

■実証実験の内容

新たなモビリティ導入による都市課題の解決に向けた検証

- ・さいたま市では、中心市街地周辺で慢性的な渋滞や外出機会の損失といった課題が残っている。
- ・本実証では、これらの課題解決を目指しシェア型マルチモビリティサービスの更なる拡充を図るため、以下の検証を行った。
 - 新たなアクセス手段としての電動サイクル等の提供
 - 自家用車からの転換可能性の検証
 - 外出機会の増加効果の検証（健康効果・経済効果の推定）



《新モビリティの例》



電動サイクル
本補助事業にて
車体投入・効果測定



EVスクーター
本補助事業外ではあるが
今年度導入を加速化

■実証実験で得られた成果・知見

- ①将来的な自家用車からの転換可能性
 - ・アンケート回答者の**23.5%**が、**電動サイクル普及により自家用車の利用が「減った」または「今後減らせる」**と回答。
 - ・シェアサイクル非利用者アンケートを用いた拡大推計により、将来的に**最大約12.3万人（市民の9.3%）の脱自家用車依存に寄与できると推定**
- ②外出機会増加の影響
 - ・アンケート回答者の**21.6%**が、**電動サイクル利用で外出機会増**と回答
 - ・シェアサイクル非利用者アンケートを用いた拡大推計により、将来的に**市全体で最大187,874回/月の外出機会創出に寄与できる可能性**が示された
 - ・外出機会創出により、市スマートシティKPIに健康・経済面での寄与にも期待
- ③利用促進への対応の必要性
 - ・自家用車利用が少ない**若年層や免許返納後の高齢層への利用周知が重要**

■今後の予定

下記の取り組みを進めることで、さいたま市における自家用車依存の軽減と外出機会の創出に貢献したい。

- ・電動サイクルの更なる拡充
- ・若年層や高齢層を含む利用者層拡大に向けた普及促進
- ・官民連携によるステーション整備の継続
- ・データ活用を通じた政策立案や施策改善の継続